



# 君は留学を志したことがあるか

—アジアの中の日本—

## 第2回 朴 成根さん(機物)

現在、東工大は諸外国から多くの留学生を招いている。今号では、その中から、韓国から本学に留学されている朴成根さんに、留学についてお話を伺った。朴さんは、現在博士3年、前々号(6号)で紹介した坂田教授(機物)の研究室に所属されている。貴重な留学体験、外から見た日本さらに東工大の印象などを、生の声で聞いていただきたい。

### 〈留学の動機〉

——留学先として、日本を選ばれた理由は？

日本は韓国に近く、アメリカより生活しやすいと思ったからです。それと、日本にはかなりの経済力がありますから、そういった所で勉強することは、将来のメリットになるだろうと考えました。

——その中から東工大を選ばれたのはなぜですか。

坂田先生が、私の先輩の論文の審査員をされていました。その先輩から坂田先生のことを紹介され、文部省の試験に合格したので先生の下で勉強したいということを、手紙に書きました。そして、坂田先生の承諾を受けて、この研究室に来たわけです。

### 〈言葉の問題〉

——言葉で苦労された経験は？

私の場合、文部省の試験を受けようとして、1年間半程度日本の中学

校の教科書を読んだりして勉強しましたから、それほど苦労した経験はありません。しかし、文法がしっかりしていても、実際の会話の方が難しく、初めて日本に来てから3ヶ月くらいはなかなか通じませんでした。その間は、テレビをたくさん見たりして、練習しました。

友達同志で話すことも、言葉が上達する条件のひとつだと思います。研究で使う日本語と、実生活で経験する日本語や習慣とは全く違いますから、研究ばかりしていても会話が上達することはないでしょう。自分から関心を持って、日本語の新聞や本を読まないと、日本の習慣に接するのは難しいと思います。

——韓国での日本語教育は？

私の居たころにはなかったんですが、今は自分が希望すれば、高校から英語や独語と同じように勉強できます。また、大学の入試でも、日本語を選択することができます。

大学では、必修が英語で、第2外国語は日本語、仏語、独語からの選択になっています。

企業の中には、入社後の外国語教育がかなり厳しいところもあるそうです。例えば、三星という財閥企業では、日本語を勉強したい人を3ヶ月ほど合宿させて、日本語以外は使わせない制度があるそうです。その後は、そうとう上達している人が多いらしいですね。

### 〈日本での生活〉

——日本での生活費は？

私の場合、文部省から奨学金をもらっていて、しかも学費は全て免除されていますから、それで生活費は補えています。それから、他の留学生の中には、足りない分を仕送りしてもらっている人もいます。しかし、私費留学生は少し苦しいかもしれませんね。

——東京の物価をどう思いますか。

やはり、東京は高いと思います。特に家賃は高いですね。でも、東京は大都市で、いろいろな人と出会う機会も多く、見物する所もたくさんありますから、そういった点では住む価値が充分あると思っています。

——日本に来たときの印象は？

街がきれいですね。とても整理されていると思います。それと、車が多いなと感じました。

また、住居に対するイメージは、韓国に居たころとは違いましたね。日本に来る前は6畳もあれば充分だと思っていましたが、今は6畳は本当に小さい部屋だと感じます。

——東京はゴミゴミしていて、汚ないと感じたことはありませんか。

いいえ、東京はきれいだと思いますよ。規則を守る人が多いから、それほど急に汚なくなるということもないでしょう。

——日本の大学生については？

日本の大学生は、豊かで、しかも自由な雰囲気の中で生活してい





るように見えます。勉強するべき時はしっかり勉強して、遊ぶ時は遊ぶといったかんじですから、そういったところは良いと思います。

——遊び過ぎだとは思いませんか。

いいんじゃないですか。私が居る研究室の学生を見る限り、自分の研究を達成して実績が挙がるまでは、がんばってやり通しますから。韓国でも、テストの前だけ勉強するというような風潮がありますし、そういった点では日本と同じですよ。

〈韓国について〉

——韓国でも、経済発展に伴って物価が上昇しているようですが…。

ええ、今は少し上がっているようですね。やはり、賃金が上がれば物価も上がりますから。このごろは、地上げもあり、株価も上がって、様々な点で日本と同じ状況になりかけています。そこで、韓国の政府は、日本の土地対策が失敗していることに注意して、たいへん厳しい取り締まりをしています。

〈留学によって得られたもの〉

——留学をされて良かったと感じることは？

昔、日本と韓国の関係が良くなかった時代がありましたね。そこで、私は日本に来るとき、なぜそうなったのかということをお自分なりに考えてみました。個人的な考えですが、これからは、そのような状況にならないように、両国の間の友

好関係をいつまでも続けていきたいと思っています。留学するのを機会に、このように自分の考え方を見直すことができたのが、良かったと思っています。

それと、私の所属する研究室にはしっかりした性格の人が多く、私自身も少し性格が厳しくなったように感じます。そういった点でも、なかなか良い経験だと思います。

〈NIESについて〉

——最近話題になっている NIES 諸国の躍進をどう思われますか。

NIES 諸国といっても、日本に比べて産業の裾幅が弱いと思います。実際、部品産業などは、あまり育っていませんから。韓国はまだ国が小さいので、あまり黒字が増え、いろいろな国から叩かれるのではないかと思います。だから、なるべく黒字を減らして、バランスをとるような政策が必要でしょう。例えば、輸入を少し増やしたり、世界に旅行して国際化に対応したりすることが必要だと思いますね。

——日本は、そういったところで、かなり失敗していますね。

いいえ、日本は産業の裾幅がしっかりしていて、競争力もあるのだから、止むを得ないことでしょう。改善策として、日本も少し輸入を増やすべきだと思いますね。

——アジア諸国の今後は？

日本はアジア諸国の中では抜き出していますが、アジア圏との協力がな

ければ、苦しい立場に落ちるようになると思います。今は EC とかアメリカ・カナダが経済ブロックを形成していますから、日本も東南アジアなどの助けを得ないと、より発展することは難しいでしょうね。経済協力をしながら、互いに足りないところを助け合う精神が、大切だと思います。

——今日は、どうもありがとうございました。

■取材後記

紙面の都合で掲載はできなかったが、インタビューはほぼ2時間に渡り、最後はいつの間にか雑談のようになっていた。朴さんは、(学部と大学院の違いはあるが) 私たちと同じ学生であり、また同じアジアの同胞であるためか、共感できる所がたいへん多かったと思う。

このインタビューを読んで、読者のみなさんの見識が少しでも広がればさいわいである。

(宮木)